

4月のてがたんは震災の影響により中止になったので、観察会下見の観察記録を作成しました。ご覧ください。
次回5月の「てがたん」は5月14日(土)で「鳥のさえずりと子育て」がテーマです。ご都合のつく方は、ぜひご参加ください。

*市民スタッフの方へ 次回のとがたん下見&打ち合わせは5月7日(土)です。よろしくお願いたします。

4月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→水生植物園(フジ棚)→手賀沼遊歩道→滝下広場
- 観察日時/天気 2011年4月2日(土) 10:00~12:00 / 晴れ
- 市民スタッフ 9名(伊藤茂子、蒲田知子、須貝基康、小泉伸夫、染谷迪夫、竹本周平、弘實さと子、水上香苗、湯瀬一栄)
- 鳥博職員 3名(斉藤安行、塩田いづみ、村松和行)

観察記録 - 4月に観察した生き物リスト

【鳥類】

カイツブリ科：カイツブリ、カンムリカイツブリ/ウ科：カワウ/サギ科：ダイサギ、コサギ、アオサギ/カモ科：カルガモ、コガモ/タカ科：トビ/クイナ科：クイナ、バン、オオバン/シギ科：タシギ/カモメ科：セグロカモメ/ハト科：キジバト/キツツキ科：コゲラ/ウグイス科：ウグイス/セキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/モズ科：モズ/ツグミ科：ツグミ/シジュウカラ科：シジュウカラ/メジロ科：メジロ/ホオジロ科：オオジュリン、アオジ/アトリ科：カワラヒワ、マヒワ/ハタオリドリ科：スズメ/ムクドリ科：ムクドリ/カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス/外来種や家禽：コブハクチョウ

【両生類】ニホンアマガエル

【昆虫・クモ】

チョウの仲間：モンシロチョウ、カタテハ/カメムシの仲間：プラタナスグンバイ、ヨコヅナサシガメ/甲虫の仲間：ナナホシテントウ/ハチの仲間：コスズメバチ(巣)

【花】

キク科：ノボロギク、オオジシバリ、ノゲシ、ハハコグサ、セイヨウタンポポ、オニノゲシ、ハルジオン/シソ科：ホトケノザ、ヒメオドリコソウ/ゴマノハグサ科：オオイヌノフグリ、タチイヌノフグリ、トキワハゼ、ムラサキサギゴケ/アブラナ科：ナズナ、ミチタネツケバナ、タネツケバナ/セイヨウアブラナ(植栽)/ナデシコ科：オランダミミナグサ、コハコベ/キンポウゲ科：タガラシ、ヒメリュウキンカ(植栽)/マメ科：カラスノエンドウ/ヒガンバナ科：スイセン(植栽)/ユリ科：チューリップ(植栽)/ハナシノブ科：シバザクラ(植栽)/モクレン科：モクレン、コブシ/イネ科：スズメノヤリ/カタバミ科：カタバミ/スミレ科：アリアケスミレ/バラ科：ヘビイチゴ、オヘビイチゴ/ミズキ科：サンシュユ/ジンチョウゲ科：ミツマタ/ツバキ科：カンツバキ(植栽)

【サクラの花】

バラ科：カンヒザクラ、'十月桜'、'オカメ'、'シダレザクラ'(すべて植栽、引用符“は品種名)

4月の観察アルバム



今回のてがたんのテーマは「桜と春の花」でした。サクラは同じ形と大きさの花びらを持ち、一つ花の中に雌しべと雄しべを持つ両性花で、バラ科に分類されます。野生種としてヤマザクラやオオシマザクラなど約10種が認められ、それ以外の栽培品種が非常に多く、日本では固有種・交配種を含め600種以上の品種が自生しています。

てがたんコース（手賀沼親水広場～滝下広場）では野生種3種と栽培品種13種が確認されており、栽培品種の‘染井吉野’がもっとも多く植えられています。



① 博物館の裏庭の‘オカメ’はイギリス生まれの品種



② 水田の畦で見つけたアリアケスミレ



③ てがたんでは今年初記録のニホンアマガエル



④ 手賀沼沿いの砂利などで繁殖する夏鳥のコチドリ



⑤ 遊歩道のツツジの中にあつたコスメバチの巣



萼筒はつつ型

‘オカメ’の萼筒（がくとう）

‘オカメ’は野生種のカンヒザクラとマメザクラから生まれた栽培品種です。花びらが小さく、花が下向きにつくのは、マメザクラの特徴です。



4月の観察生物とルート



萼筒はつぼ型

エドヒガンの萼筒

‘枝垂桜’はエドヒガンから生まれた栽培品種です。エドヒガンは古くから寺や神社で栽培され、国の天然記念物に指定されているものもあります。



⑩ 滝下広場のエドヒガン この広場にはヤマザクラも植栽されています



⑨ ほぼ毎年ハシトガラスが巣をつくる木では、今年も繁殖が始まりました



⑧ まだ開花前だった‘染井吉野’オオシマザクとエドヒガンの雑種と考えられています



⑦ シダレヤナギの雄花 ヤナギ科は雌雄異株で植栽される多くが雄株です



⑥ 手賀沼内で新しい植生帯を造成中で、ヨシなどの水生植物が運ばれていました

モズの鳴きまね

水生植物園近くでヒバリの鳴きまねをしているモズを観察しました。モズは漢字で百舌と書くように、シジュウカラやハクセキレイなど他の鳥の鳴きまねが上手です。さえずり同様、オスがメスに自分をアピールするために鳴きまねをします。

モズは手賀沼周辺でも繁殖しますが、ヤブの中に巣をつくるため、なかなかその様子は観察できません。繁殖が終わり、夏になるとモズは山地に移動し、秋になると再び平地に降りてきて「高鳴き」を聞かせてくれます。



モズみの後ろ姿



分布図の色

- 留鳥
- 夏鳥
- 冬鳥

モズの分布図

地図引用：財団法人日本鳥類保護連盟「鳥630図鑑」

てがたんにご参加ありがとうございました。次回の参加もお待ちしています！